

先進地調査等報告書

平成 30 年 11 月 13 日

天童市議会議長様

会派名 政和会

代表者 後藤和信 

下記により、会派において調査（視察）が終了したので報告します。

記

期 間	平成30年11月6日（火）から平成30年11月7日（水）まで
調査（視察）先 調査項目	富山県 舟橋村 移住・定住の促進で人口増の取り組みについて 富山県 南砺市 鳥獣被害防止対策の取り組みについて
調査（視察）目的	日本一小さい村での人口増に対する取り組みと鳥獣被害が多発している市の今後の対策について先進市の取り組みを勉強するため。
市 政 と の 関 連 性	富山県 舟橋村 日本一小さい村での積極的な人口増に対する取り組みについて。天童市では人口の減少にあることから、どのようにして移住定住を促進したかは今後の取り組みの参考になる。 富山県 南砺市 市内の各地で有害な鳥獣による被害が多発している防止対策と今後のジビエに対する取り組みについて参考になる。
調査（視察）内容	富山県 舟橋村 日本一小さい村（3.47km <sup>2</sup> ）、年少人口の割合（21.8%）、住民一人当たりの貸出冊子数（32冊） 主要産業が農業。 「子育て共助のコミュニティをつくる」という総合戦略を展開、「舟橋村でならもう一人子供を産みたい」と思われる村づくりを推進。 ○ベッドタウンとしての舟橋村 取り組みを始めた当初は住宅地としての土地の単価が周辺自治体よりも低価格な宅地開発と交通の利便性によって若者が多く住んでもらえるようになって

た。年少人口が平成 22 年度は全国 1 位、平成 27 年度は全国 14 位。

現在は周辺自治体との住宅地の価格差が縮小され厳しい状況に直面してきている。

将来の人口構成をみると逆ピラミッドが進み、大きな歪みが発生してくる。  
○富山県内の企業と連携をしながら、魅力的な子育て環境づくりを進めることで、子育ての観点からの新商品、サービス創出や企業の競争力強化、CSV 事業の浸透を支援する。

モデルエリアの設定（京坪川河川公園）集約

- 1、子育てコミュニティ賃貸住宅の提供
- 2、公園の再開発・運営
- 3、認定こども園

駅前に集約

越前舟橋駅・駅庁舎と併設して村立図書館・商工会議所が併設されていることで住民の利便性がよい。

図書館

1 階が子ども図書館で児童書や絵本が多数。2 階が一般図書。3 階が蔵書室。住民一人当たりの貸し出し図書数が非常に多い。

○富山大学との連携

富山大学と「地域づくり包括連携協定」を締結し、「協働型まちづくり」を推進している。

○県内の造園業者や工務店との連携

「富山県が元気になって初めて、ベッドタウン・舟橋村も元気になる」この地勢学的をプロジェクトの美学としている。

富山県 南砺市

○鳥獣被害防止計画は平成 30 年度～32 年度まで

イノシシ、カラス、ニホンジカ、ニホンサル、ハクビシン、ツキノワグマ等  
○イノシシによる農作物の被害が平成 29 年度で 1000 万円を超え深刻な状況に置かれている。電気柵などでの侵入防止策では一定の防止効果があったが高齢化などによって管理されなくなったことで、被害が拡大していった。

対策

集落環境管理、侵入防止対策、捕獲対策を基本として関係機関や周辺市町村との連携を図って取り組んでいる。

- 1、集落環境管理 雑木林の刈払い 放任果樹の除去
- 2、侵入防止対策 電気柵等、侵入防止柵の整備（240.7km.）
- 3、捕獲対策 有害捕獲、被害防止パトロール、射撃訓練支援、猟銃免許取得支援

カウベルト

牛の放牧によって耕作放棄地の解消と有害鳥獣の侵入防止。

電気柵を 3 段に設置して牛 2 頭を 6 月中旬～10 月下旬まで実施。

イノシシによる農作物の被害が減少していった。

<p>市政の課題への参考等</p>	<p>富山県 舟橋村 コンパクトシティを更に推進するには、公共施設などの多機能化と集約が必要と考えられる。また、インフラの整備にしても将来のコストを考えると地元企業や住民など、多方面からの協力と支援に対して考えを持っていくべきと感じた。</p> <p>富山県 南砺市 鳥獣被害が中山間地域での高齢化などによる耕作放棄地などの拡大が伺われることから、天童市としても抜本的な改革や支援をしていかなければ将来大変な事態が発生することが考えられる。</p>	
<p>参加者の感想等</p>	<p>参加議員氏名</p> <p>結城義己</p>	<p>感想等</p> <p>富山県 舟橋村 移住・定住促進で人口増の取り組みについて 1、宅地造成時に次の強みがあった。 ① コンパクトなまちとして、インフラ整備がなされていたこと(駅、小中学校、保育園など)。 ② 交通の利便性があったこと(地方鉄道、高速道路、国道など主要道など)。 2、住宅団地の造成によって、人口が倍増している。 ベッドタウンとして発展した。平成6年以降人口が増え続け、平成元年は1,453人であったが、平成20年には2,941人になっている。 3、人口増の効果として、インフラ整備が進み、子育て世代・児童数の増加(平成22年に15歳未満の年少人口割合が21.8%で全国1位)、村のイメージアップに繋がり、税収の増加にもなっている。 4、教育に力を入れている村として評判が高い。今回の視察は教育分野でないので詳しく聞けなかったのは残念でしたが、東大はじめ一流の大学に多く入っている村のようである。駅にある図書館を見学してその「教育の村」の一端を感じ取った。天童市ももっと教育に力を入れていく必要があるのではないかと感じた。 5、人口ピラミッドによると、2040年には急激な高齢化と深刻な少子化が心配されている。 合併しないのは、学校がなくなるからと言われているが、将来の大きな課題となりそうである。</p> <p>富山県南砺市 鳥獣被害防止対策の取り組みについて 1、平成29年度の鳥獣被害はクマ、サル、イノシシ、鳥類によるもので、被害総額は6,000万円。一番多いのはス</p>

		<p>ズメ、カラス等の鳥類被害で 46,957 千円、全体の 78%超になっている。</p> <p>2、対策と取り組みとして次の事業を行っている。</p> <p>① 集落環境管理 雑木林の刈り払い、放任果樹の除去</p> <p>② 侵入防止対策 電気策等侵入防止策の整備の整備</p> <p>③ 捕獲対策 有害捕獲、被害防止パトロール、射撃訓練支援、狩猟免許取得支援</p> <p>④ 特有な事業として、「カウベルト」を行っている。 牛の放牧により耕作放棄地等の解消や景観保全、野生動物と人間の棲み分けを図るもの。</p> <p>3、この防止対策には、どこの市町村でも悩んでいる。地道に継続していかなければならないと実感した。</p>
	<p>松田光也</p>	<p>舟橋村の人口減少に歯止めをかける為に市街化調整区域を外した。その結果、平成元年から宅地の造成ができるようになり、駅や役場学校が隣接し利便性があり、さらに当時、近隣市・町の土地価格の2分の1程度であったため、開発が進みインフラも進み、人口増につながった。本市でも、市街化調整区域のあり方について、検討すべきと考える。</p> <p>相乗効果により生活水準も高くなったが、格差も広がった。新しく来た家族とのコミュニケーションが難しい。現在は、土地価格も高くなり、近隣と変わらなくなり、村に入ってくる方が少なくなった。</p> <p>富山大学との包括連携により、まちづくりが成功している事例研修を始め、その1つとして人口問題プロジェクトチームが、子育て環境の整備に取り組んでいる。子育て支援を、産学官金による勉強会を行っている。この中で、コミュニティの重要性が大切で民間主導ですべきであることを共有した。</p> <p>コミュニティ醸成と子育て支援の向上を目指す地位区づくりを産学官金が協力する形でモデルエリアを整備した。行政主体でないことで、全てが利用者側から見た整備事業で、これからも住み続けたいまちづくりとなっている。公園づくりは、公園を造園業だけでなく市民全員でつくる、「園むすびプロジェクト」を誕生させたくさんの人に携わる公園づくりを行って、公園の愛着と期待感が人を呼んでいると感じた。</p> <p>舟橋駅に、図書館や商工会議所があったが、図書館につ</p>

	<p>いては、アットホームな感じで、子どもたちが通いたくなるような図書館でした。また、和室の部屋があったり、親子で弁当など軽食ができる部屋があり、ゆったりとした時間を取れる感じがとても良かった。</p> <p>南砺市平成20年頃から農作物の被害が多くなり、平成29年には被害総額が1千万円以上となった。平成30年から32年の3カ年、南砺市 対象鳥獣の被害防止計画を策定する。被害軽減目標を平成29年度の2分の1（580万円）とした。</p> <p>新入防止対策（電気柵の設置）、集落環境管理（雑木林の刈り払い、放任果樹の除去）、捕獲対策（有害捕獲、被害防止パトロール、射撃訓練支援、狩猟免許取得支援）、</p> <p>【新規取り組みとして】県の事業 被害0モデル集落育成事業……3カ年計画 富山県他区専門チーム……有害捕獲業務従事者の強化、人材育成 富山県の取り組み 「山形県には無い取り組み」</p> <p>① 富山県で捕獲された野生鳥獣を獣肉の衛生管理及び品質船舗に関する、ガイドラインに準じて処理され、「とやまジビエ」として使用食する。</p> <p>② 獣肉処理施設整備への支援……H24～、捕獲したイノシシ等の野生獣肉を、ガイドラインに則して適正な解体処理を行うために必要な施設を整備する経費を補助する。</p> <p>③ 富山県ジビエ研究会の設立（捕獲したイノシシ等の有効活用について）……捕獲者、処理業者及び流通・飲食関係者等の相互理解を深める。また、消費者に普及PRすることで、需要の拡大を図り、併せて山間地域の農作物の被害防止に寄与する。</p> <p>本県又は天童市において、鳥獣被害が増加している根本的な要因は有害鳥獣の増加であり、追い払いや、電気さくの設定だけでは、一時的被害防止策である。</p> <p>有害野生鳥獣の捕獲を支援する施策を拡大することが求められます。さらに、関係者の連携により獣肉利用拡大にも、特段の支援が必要であります。今後本市でも新しい給食メニューとして美味しく食べてもらいたい。</p>
佐藤俊弥	<p>舟橋村は、若い移住者もおおく人口増につながっている。しぼりがきつくないコミュニティを持つ若い村で、住居も共感する人のみ入居できる子育て支援賃貸住宅をハウスメーカーと作る。公園整備も自分達が満足するものを手掛け、</p>

		<p>あの公園があるから住みたいと他にはない公園を住民が、造園業者とコーディネート。こども公園部長も7人誕生している、また舟橋村でなら、子どもをもう一人生みたいと思える環境づくりに、人を巻き込みながら「園むすびプロジェクト」など地域の共助づくりに民間企業（積水ハウス）が参入、魅力ある街と思えた。また駅前にある村立図書館職員から丁寧に説明を受け、舟橋村のやさしさ・おもいやりを実感した。</p> <p>南砺市における鳥獣被害防止対策について、南砺市は降雪も多く重い雪が降る地区。</p> <p>猟友会も本市と同じく高齢化になっており、隊員も66名。被害も29年度で1,000万ほど、捕獲対策に取り組んでいるが決め手はなく、地域ぐるみで総合的な取り組みを計画、現在に至っている。</p>
後藤和信		<p>富山県舟橋村 小さい村ならではの取り組みが非常に見受けられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、公共施設の集約として 舟橋駅に図書館と商工会議所を併設して住民のサービス向上に努めている。</li> <li>2、施設の集約としてモデルエリアを設定。 京坪川公園周辺に子育て支援住宅の建設、認定子ども園の設置、京坪川河川公園の整備。</li> <li>3、異業種間連携のプラットフォームづくり。</li> <li>4、地方創生に関する覚書の締結として 舟橋村、富山大学、富山県緑化造園土木協会、(一社)日本造園建設協会富山県協会、(一社)日本造園組合連合会富山県支部との「舟橋村における公共空間の整備・利用に関する子育てコミュニティづくり事業にかかる連携協力に関する覚書」など。</li> </ol> <p>これらの施策を見ると天童市でも大変参考になる点が多くあった。</p> <p>富山県南砺市 鳥獣被害が天童市と同じく近年急激な増加が伺われた。 市の80%が森林地帯であることで、イノシシ、クマ、サル、日本シカ、鳥類など。電気柵の設置やカウベルト、里山の整備など効果が限定的なことから苦勞されていた。 猟友会との連携が大切な面。猟銃保持者に対する補助金は天童市の方が多かった。 天童市としても電気柵などの設置による防止から駆除の</p>

		体制に変更すべきである。また、ジビエへの取り組みも推進すべきと思われます。
--	--	---------------------------------------

※参加議員全員が各調査（視察）先ごとに感想等を記載すること。